

SDGsがわかる

# つた 伝える！ こく 国連のしごと 仕事

## 危機にさらされる難民 支援も命がけ

世界のさまざまな現場で人々のため働く国際連合(国連)の職員たち。国連広報センターの根本かおる所長は、そうした職員のことを「一番の宝」といいます。日本人職員が帰国した際は、現地の話聞かせてもらおう。中東のパレスチナ難民の人々を支える清田明宏さんも、その一人です。清田さんが語った世界の現実について、根本さんが紹介します。



ポリオワクチン接種を受ける子ども(2024年9月、パレスチナ自治区ガザ地区の南部ハニユンに近郊)



国連の活動を伝える私にとっ て、世界中で人々のため働く国連職員は仲間であり、「一番の宝」です。日本人職員が帰国したときは現地の生の話を聞かせてもらっています。中東のパレスチナ難民の人々を支える、国際連合パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の職

### 国連パレスチナ難民 救済事業機関(UNRWA)

イスラエルの建国などで、住む場所を失ったパレスチナ難民を支援する組織。教育や医療を受けられるよう活動しています。この組織をめぐる、イスラエルは去年10月、対立するイスラム組織ハマスの活動に職員が関わっていると、国内での活動を禁じる法案を可決しました。これを受けて去年12月、国連総会(193か国)がイスラエルを非難する決議案を159か国の賛成で採択。UNRWAの活動を支持しました。

### 広がる感染症 休戦中にワクチン接種

国連の活動を伝える私にとっ て、世界中で人々のため働く国連職員は仲間であり、「一番の宝」です。日本人職員が帰国したときは現地の生の話を聞かせてもらっています。中東のパレスチナ難民の人々を支える、国際連合パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の職



日本に一時帰国した際に記者会見する清田明宏さん(東京都千代田区、国際連合センター)

ガザ地区は、2023年秋から続けている、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦いの中心地。戦いが始まって以降、清田さんは医療スタッフの応援や現地の確認のため、何度も足を運んでいます。医療物資の不足をはじめ、患者を安全な場所に運ぶことすらも難しくなっているそうです。去年夏には、ガザ地区で25年ぶりにポリオウイルスの感染を確認。ワクチン接種していかないと、手足にまじりがあらわれ、亡くなることもある感染症です。「一時休戦となったあいたに、UNRWAなどが子どもたちへのワクチンの集団接種にあたりました。現場は、命がけの活動だったようです。集団接種のため、許可を得て同僚たちと車で移動していたところ、検問所でイスラエル軍から足止め。清田さんたちの車は戦車とブルドーザーにはさまれ、身動きをとれなかった上、車体が損傷。足止めは、7時間も続いたそうです。

### ガザ地区での活動より難しい状況に

戦いが始まって1年あまり、ガザ地区では、去年の年末時点で4万5千人をこえる人々が命を落しました。その中には200人以上を上回る国連職員、800人以上の医療関係者が含まれます。戦いの巻きをえなどで、手足を切断される子どもも多く出ています。厳しい現実を知ってもらいたいと、去年11月に清田さんの記者会見の場を国連広報センターで用意。ヨミの山をかき分け使えものを採りながら生きるガザ地区の人々のことを語ってくれました。ただ、ガザ地区の人々をめぐる状況は悪化し続ける一方です。イスラエルの国会がイスラエル国内でのUNRWAの活動を禁止する法案を可決し、1月末に法律が実施されることになっているからです。ただ、困難なガザ地区への支援が、より難しい状況になっていくことが考えられます。

日本は戦争をへて、1948年



ねもとかおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒、アメリカ・コロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー。1996年から2011年未まで国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)で勤務。国連世界食糧計画(WFP)広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。

(掲載:朝日小学生新聞 2025年1月12日掲載)